

九三番

うちのおほまへつきみちちはらのまへつきみ
内大臣藤原卿、鏡王女を媁ふ時
に、
かがみのおほきみ、うちのおほまへつきみ
鏡王女、内大臣に贈る歌一首

玉くしげ 覆ふをやすみ 明けていなば 君が名
はあれど 我が名し惜しも

うちのおほまへつきみちちはらのまへつきみ
内大臣藤原卿、
かがみのおほきみ
鏡王女に報へ贈る歌一首

九四番

玉くしげ みもろの山の さな葛 さ寝ずは遂
に ありかつましじ

うちのおほまへつきみちちはらのまへつきみ
内大臣藤原卿、
うねめ
采女の安見児を娶く

時に作る歌一首

九五番

我はもや 安見児得たり 皆人の 得かてにすと
いふ 安見児得たり